

2026年 参加無料

電炉鋼材 フォーラム 開催

主催

普通鋼電炉工業会

2026. 11.16 月
13:15 ~ 16:55

会場参加

開催場所

品川フロントビル会議室
東京都港区港南2-3-13 品川フロントビル B1階

会場参加

定員 300 人

ライブ配信 オンライン参加（参加用URLよりご参加ください）

※参加希望者は、会場参加・オンライン参加どちらの場合でも、下記の申込フォームURLよりお申込みください。

普通鋼電炉工業会は、鉄スクラップを電気炉により溶解・圧延し、鉄筋、形鋼、平鋼等の電炉鋼材を生産しています。電炉鋼材は建設分野を中心に幅広く使用されており、また今日、環境・資源循環等の観点からも鉄のリサイクルによって生まれる電炉鋼材への関心は日々高まっています。そのような中、当工業会では例年、官公庁・自治体・建設会社・設計会社・鉄骨加工・鉄筋加工・流通・教育研究関係をはじめとするユーザーの方々をお招きし、電炉鋼材の生産技術、鋼材使用の動向、電炉業をめぐる動きについての情報発信を行うべく、「電炉鋼材フォーラム」を開催しています。本2026年も昨年に続き、東京での対面開催を主体としつつ、特に遠隔地から参加を希望される方々の便宜にも配慮し、オンラインによるライブ配信を同時開催します。

申込方法

参加希望者は、会場参加・オンライン参加
どちらの場合でも、申込フォームURLよりお申込みください。

申込フォーム
URL } <https://e.try-sky.com/fudenkou/entry/>



13:15 ~ 13:25 **開会挨拶** 普通鋼電炉工業会 会長 美濃部 慎次

13:25 ~ 13:35 **「最近の電炉鋼材の概況」** 普通鋼電炉工業会 品質管理委員会 委員長 上道 雅丈 (共英製鋼株式会社 上席執行役員 生産企画部長)

13:35 ~ 14:10 **資源循環の高度化に向けた、鉄鋼メーカーの役割と期待**

株式会社みずほ銀行 産業調査部 アナリスト 久米 晃太 氏

国内ではグリーン鉄の市場形成・供給体制の構築に向けて、官民挙げての取り組みが進められており、高品位スクラップの安定確保に向けた検討も進められております。本講演では、鉄リサイクルを日本の産業競争力強化に繋げていく上で、鉄鋼メーカーが果たす役割と期待についてご案内致します。

14:10 ~ 14:45 **サーキュラーエコノミー時代の鉄鋼材ライフサイクルに求められること**

東京大学 先端科学技術研究センター 教授 醍醐 市朗 氏
東京大学 未来戦略LCA連携研究機構 機構長

鉄-炭素合金の鉄鋼材は、強い材料から変形しやすい材料まで、内部組織の制御によって実現可能です。鋼材中炭素は、添加も除去もしやすく、鉄鋼材は理論的にはリサイクルによって機能劣化しない優れた材料です。一方、製鋼において除去できない不純物元素はあり、鉄スクラップに不可避に付随するそれら元素の影響が危惧されています。これからの鉄鋼材生産、使用、回収のライフサイクルにおいて求められることを紹介します。

14:45 ~ 15:00 休憩

15:00 ~ 15:35 **GX推進におけるアーク炉向け固体バイオ燃料の技術開発の動向と展望**

近畿大学 バイオコークス研究所 所長/教授 井田 民男 氏

鉄鋼業界及び周辺業界への革新的な固体バイオ燃料(バイオコークスなど)供給を早期に実現すべく、消費企業へのサプライチェーンを構築するまでを相互に協議する公共空間が不足している。特に、CO燃焼に関する知見の「空白」が存在しており、アーク炉のCN化にはCOに基づく革新的な固体バイオ燃料の研究開発が焦点となることは間違いなく、研究成果を基に燃焼工学的な観点からご紹介します。

15:35 ~ 16:10 **電気炉安定操業を支える原料ハンドリング設備紹介**

シンフォニアテクノロジー株式会社 振動機営業部 田上 英樹 氏

シンフォニアテクノロジー株式会社 産業インフラシステム営業部 森岡 達哉 氏

カーボンニュートラルを背景とした電気炉設備需要拡大において、投入原料のハンドリング機器を 長年手掛けて来た弊社が、最新型の電炉用大型リフマグ®と電炉投入前処理工程での振動機製品について省人化と予防保全をテーマに御紹介致します。

16:10 ~ 16:55 **世界の鉄スクラップ需給展望—鉄スクラップは不足しない？**

株式会社鉄リサイクリング・リサーチ 代表取締役 林 誠一 氏

24年末世界の鉄鋼蓄積量は推定392億tあり、これを財源に回収された老廃スクラップは3.5億tと推計され、ダムやトンネルなど回収されないものを除くと現状のまま蓄積が増えないとして向こう約70年間は回収し、使用を続けられます。しかし次の3点が不足問題を起こしています。

- ①蓄積量は「国(地域)」に偏在している
- ②CO₂抑制問題から電炉化が促進され、スクラップの「高品位化」が求められている
- ③EUの貿易制裁によりロシア「銑鉄」を入手出来なくなったEU電炉メーカーに「鉄源確保問題」が起きている。